

1. 地域連携研究機構(産学官連携)の組織及び取組み

地域連携研究機構(産学官連携)

【知的財産ブリッジセンター】
(平成15年度設置)

知的財産マネジメントオフィス

コーディネーター 4名(H24.4現在)
(総合家電メーカー、総合化学企業等出身者)

【業務】

- シーズの知的財産化
- 知的財産の管理及び運用
- ライセンスング

【具体的な取組み(H23年度)】

- 特許出願件数 111件
- 特許取得件数 63件
- 特許取得累計件数 150件
- ロイヤリティ収入 14,546千円
(成果有体物収入含む)

リエゾンオフィス

コーディネーター 12名(H24.4現在)
(電機、化学、食品、製薬業界等出身者)

大阪信用金庫からもコーディネーターが派遣され、府大に常駐し、販路開拓、技術相談、マッチング支援、つなぎ融資等を実施
※大阪信用金庫を含め、11金融機関と包括連携
※池田泉州銀行とは、市大との3者連携専用の投資ファンド(総額1億円)創設

【業務】

- 技術移転の推進
- 企業からの技術相談窓口
- 外部資金の獲得

【具体的な取組み(H23年度)】

- JSTのA-STEP探索タイプ採択数全国一(76件)
- 技術相談件数 721件

【シーズ育成オフィス】
(平成20年度設置)

コーディネーター 1名(H24.4現在)
(総合家電メーカー企業出身者)

【業務】

- 大型の公的資金獲得支援
- 教員のシーズ発掘と企業との共同研究の支援
- シーズを公的資金制度につないで大型の外部資金を獲得し企業化を支援

※【大学等産学官連携自立化促進プログラム(コーディネーター支援型)】

【具体的な取組み(H23年度)】

- 国プロジェクト採択件数 4件
- 共同研究 6件 5百万円
- 受託研究 25件 4.9億円

【リサーチ・アドミニストレーションセンター】
(平成24年度設置)

センター長(ESURA、兼任)
センター長補佐 2名(SURA、兼任)
SURA 1名(専任)

【業務】

- 研究戦略の企画及び推進
(学内異分野融合、総合複合領域等)
- プログラムコーディネート(公募分析、提案促進、研究管理等)
- 地域イノベーションの強化
(サポイン、共同研究)

【今後の取組み予定(H24年度)】

- SURAの増員
- 学内インセンティブ公募事業支援
- 大型プロジェクトの獲得

【府大・市大産学官連携共同オフィス】
(平成20年度設置)

コーディネーター 3名(H24.4現在)
(光学機器、食品、IT/ソフトウェア企業等出身者)

【業務】

- 連携研究テーマの戦略的設定
- 共同イベント等の開催
- 金融機関との連携策の展開等
- 府大・市大産学官連携活動の推進

※【大学等産学官連携自立化促進プログラム(機能強化支援型)】

【具体的な取組み(H23年度)】

- フェア(10件出展)
- JST新技術説明会(19件出展)
- 中小企業技術相談ホームドクター
会員企業数 166社
- 技術相談件数 65件

2. 外部資金の獲得状況

外部資金獲得金額

H16→H23 2.3倍

年度	補助金等	科研費	奨励寄附金	受託研究費	共同研究費	合計
H16 (法人化前)	126	669	226	245	277	1,543
H21	498	1,094	217	1,222	289	3,320
H22	591	1,086	229	1,088	339	3,333
H23	533	1,193	180	1,196	362	3,465

※別途、植物工場研究センター整備分11億円獲得(H21)

部局別獲得金額(H23年度)

部局	獲得金額(百万円)
工学部	1,610
生命科学研究科	502
理学部	399
経済学部	29
人文学部	89
看護学部	49
総合リハ学部	27
推進機構	28
高等教育研究機構	238
地域連携研究機構	494
21世紀科学研究機構	494

3. 産学連携の成果(実用例)

過熱水蒸気によるウォーターオープンヘルシオ

■シャープ株式会社 ■生命環境科学研究科 教授 宮武和孝

本学の研究成果である過熱水蒸気の持つ「輻射伝熱」、「対流伝熱」、「凝縮伝熱」の特徴を生かして、水で焼くオープン「ヘルシオ」をシャープと共同開発した。300℃の過熱水蒸気で調理された食材は、脱脂、減塩、ビタミンC保持などの効果があるため、健康志向の社会ニーズにマッチしたヒット商品となっている。

太陽電池付光触媒歯ブラシ「ソーラー」

■株式会社シケン ■工学研究科 教授 安保重一

歯ブラシに搭載された半導体である酸化チタン電極に光が照射されると、その表面で電子が歯垢中の水素イオンを奪い取る酸化還元反応が起き、不安定化することで歯垢を取りやすく、ブラッシング効果を高めることができる。本学の光触媒に関する研究成果の実用例である。

古代米の新健康酒「なにわの育(はぐくみ)」

■西條合資会社 ■生命環境科学研究科 教授 大門弘幸

「府大発ブランド品開発研究会」の開発商品第一号。本学が長年保存維持してきた古代米の中から選別した酒好適米「アサムラサキ」を使い、河内長野の天野酒造造元である西條合資会社の協力を得て清酒「なにわの育」が完成。抗酸化作用・抗がん作用があるといわれているアントシアニンが多く含まれたピンク色の清酒。

発酵塩食中毒細菌(カンピロバクター)の迅速検査キット

■扶桑薬品工業(株) ■生命環境科学研究科 教授 山崎伸二

本学と扶桑薬品工業(株)は細菌性食中毒原因菌の1つであるカンピロバクターを簡便かつ迅速に検出する画期的な方法を開発し、検出技術のライセンス供与を受けたタカラバイオ(株)が迅速に検出・同定する検査キットを製品化。